

障害者の権利を守り、発達を保障するために

# みんなのねがい

6  
2025  
No.716



特集

## 自閉スペクトラム症の理解を深める

自閉症を「不安」という視点で理解する 三木裕和  
自閉スペクトラム症の青年・成人たちの仲間 別府 哲

連載

いま語りたい 心の窓を広げて 宮崎信恵

# みんなの ねがい

2025年6月号  
No.716

- 1 人として 尾崎 望
- 2 【インタビュー】いま語りたい心の窓を広げて 宮崎信恵
- 4 教員のはじめの一步 小畑耕作
- 6 心に種をまく 安田菜津紀
- 7 あなたに届けたいこの一冊 吉田真知子
- 8 この子と歩む 富田博子
- 11 進め！ 推し活道 藍 涼之介

## 特集 自閉スペクトラム症の理解を深める

- 13 親としての私のねがい 戸田紀子
- 14 社会の主体者として人生を豊かに切り拓く人に 黒川陽司
- 16 自閉スペクトラム症の職員と職場の関係
- 18 自閉スペクトラム症の青年・成人たちの仲間 別府 哲
- 20 さらに学びを深めるために 全障研出版部書籍紹介
- 21 自閉症を「不安」という視点で理解する 三木裕和
- 24 私ときょうだい 小室 径
- 26 子どものミカタ 岡田徹也
- 28 ソーシャルワークってなんだろう？ 木全和巳
- 32 シリーズ 18歳 下川和洋
- 34 暮らしの場は今 村瀬智弘
- 36 実践にいかす障害と医療 安藤佳珠子
- 38 ニュースナビ 聴覚障害女兒逸失利益裁判 久保陽奈
- 40 実践の魅力 保木あかね
- 43 全障研の支部ニュース、紹介します 柴田ますみ
- 44 みんなのひろば
- 45 【トピック】親子みらいワーク 報告集の紹介 清時忠吉
- 46 息子と歩く 千葉桜 洋
- 47 BOOK／編集後記

裏表紙 おいしいひととき 吉田史枝



デザイン・イラスト

うじたなおき、勝倉大和、ちばかおり  
永野徹子、日本印刷、橋野桃子、山内若菜

## 表紙のこぼ

田辺漁港で遊んでいた地元の子供達。カメラを向けると、はにかみながら仲良く並んだ。港の美しい午後の光と、三人の関係性や性格が伺える表情。シャッターを切った瞬間にグッと手応えを感じた。この写真を撮ったのが二十数年前。和歌山を撮り続けた、僕にとっての処女作である「和らぎの道で」のキービジュアルとなった。

代表作と自分が思えたものは、誰から見ても強く印象に残ると信じている。そういう写真が撮れたときの喜びは半端ないし、それがあるから写真家を続けていける。ミラクルは起こるものだと思うけど、ただそれには数も必要で、それって努力である。そしてその瞬間を「きた」と感じ取れるのが地力なんだと思う。



表紙=土佐和史

とさ かずふみ／写真家。1977年大阪府生まれ。全国各地に出向き、旅ゆく道で出会ったひとや風景を撮り続け作品発表を行っている。2018年に写真集出版レーベルBUFFALO PRESSを立ち上げる。写真集に、「SUNLIGHT MEMORIES」(CITYRAT press)「北関東」「路地裏に咲いた花」(いずれもBUFFALO PRESS)がある。

# 教員のはじめの1歩

## 第3回

## その行動の意味は？



全障研和歌山支部

### 小畑耕作

こばた こうさく / 1951年生まれ。特別支援学校に長年勤める。退職後、元大和大学教授、現在太成学院大学非常勤講師、教員養成課程担当。

子どもたちの行動に対して、「意味のない行動はない」と言われてきました。が、それはどういうことでしょうか？  
長年特別支援学校で勤める中で、子どもたちから多くのことを教えられました。が、その中で、私が特に心に残っていることを紹介します。

### 内面理解とは

高等部でのことです。中学校からの粗暴の内申があり、カッとなると机を蹴飛ばしたり、椅子を投げたりするというヒロヤ君が、障害の重いヤス子さんに手を噛まれて血がにじんでいるところへ駆けつけました。私はヒロヤ君の予想される行動に身構えていたのですが、仕返しや暴力もせずに、痛みをこらえながら「先生、ヤス子もつらいんやな」と言ったのです。ヒロヤ君は、ヤス子さんの人を噛む行為の内面を語ったのです。当時の私は、ヤス子さんを叱るだけで、内面をとらえることができなかったのです。知的障害のあるヒロヤ君は、これまで自分も追い込まれ、なすすべがなく暴れるような行動をとってきたのだと思いました。ヒロヤ君から教育者として最も大切な内面をとらえることを教えられました。

特集

# 自閉スペクトラム症の 理解を深める

自閉スペクトラム症（ASD）の仲間たちは、「興味関心の幅が狭くて、授業や活動への参加がむずかしい」「周りの友だちや活動を意識していないように見える」など、自分の世界の中に、固く閉じこもっているように見えることがあります。思春期を迎えると、「今までよりも感情表出が激しくなった」「突然怒り出す理由がわからない」など、感情の振れ幅の大きさに周りが圧倒されることも。一方、行動の一つ一つに指示が必要で、指示なしでは動きづらい姿を見せることもあります。ASDの人たちが見せるこうした姿の奥には、どんな思いやねがいがあるのでしょうか。

関心がないように見えたり、動きづらかったりする姿の裏側には、やってみたいけれども、プライドが培われてきたからこそ失敗するのが怖かったり、友だちへのあこがれが育っているからこそ、集団の中でうまく力を発揮できないといった葛藤があるのかもしれませんが。激しく怒っているその心のうちには、自分の思いやねがいがかかってもらえない、長年の苦しみや悲しみが、幾重にも積み重なっているのかもしれません。

今回の特集では、思春期・青年期の子どもや仲間の心の奥にある、本当の思いやねがいを知ることを通して、ASDの子どもや仲間たちへの理解を深めます。

# 自閉スペクトラム症の 青年・成人たちの仲間

岐阜大学 別府 哲



## 鉄オタ倶楽部

奈良教育大学の富井奈菜実さんが、「鉄オタ倶楽部」という活動をやっておられます。鉄道に強い愛をもっている自閉スペクトラム症の小学生から高校生数十人が毎月集まって活動する会です。毎年後半になると、それぞれテーマ（撮り鉄や音鉄など）で数人のチームに分かれ、テーマにそった活動（鉄道の写真を撮りに行くなど）を行います。それを年度末には成果発表会として、一般の方も参加する会で発表するのです。

その活動をまとめた本（富井奈菜実・越野和之・別府哲／編著『鉄オタ集結！「好き」を強みに♡発達障害のある子の居場所「鉄オタ倶楽部」』クリエイティブかもがわ）が出版されました。とてもおもしろい内容満載なのですが、その中で次のエピソードが紹介されています。

「チーム・プラレール改造」

\*

（既存のプラレール車両を塗装し直し新しい車両に生まれ変わらせるジャンル）というチームのことです。その年、かなりいい動画も撮れ、あとは成果発表会のプレゼン原稿作成だけが残っていました。しかし成果発表会のリハーサル3日前になって、その動画がチームのみんなに届かず原稿が作れない。富井さんは2日前に急遽オンラインミーティングを設定します。ところが動画を持っていく肝心の長瀬くんが待っても待っても入室しません。富井さんはメンバーのまるはちくんに、長瀬くんと連絡を取るようお願いしますが、まるはちくん曰く「あいつ（長瀬くん）、今、放出（※これはある難読駅名です：答えは最後に）で（電車の）撮影してるらしいわ」。

みんなに集まってもなかったのに申し訳ない…。富井さんはかなりあせつただろうと思います。しかしチームのみんなを振り返ると、富井さんのあせりとはまったくちがう様子なのです。みんなは「仕方ないなあ」「まあ、（リハーサルも）どうにかなるでしょ」という雰囲気。それも無理に我慢しているのではなく、富井さん曰く、ごく「自然な気配り」だった…。

\*

私は最初このエピソードを聞いた時、とてもとても驚きました。そして次の瞬間、なんてすてきな仲間なんだろう！と感動したのです。ここでの長瀬くんの言動は、せっかく電車が撮れるポイントと時間を見つけたのだからそれを何としても優先したい！という、彼の「素の自分」を出したものだと思えます。しかし彼のこういった「素の自分」を他の集団でやったら、「約束を守れ！」「みんな迷惑してるぞ、撮影なんかや



さらに学びを深めるために

# 全障研出版部書籍紹介

自閉スペクトラム症は「人の心がうまく理解できないために、人とコミュニケーションや、やりとりがうまくできない」と言われています。支援者として、自閉スペクトラム症児者の心が理解できず、悩み、疲弊した経験をもつ人は少なくないのではないのでしょうか。

本書は、自閉スペクトラム症児者の感情や言動、行動を「障害特性」としてとらえるのではなく、それらの人たちが考え感じている「心の世界」に近づき、多くの実践例を示しながら、発達の考察をおこなっています。

自閉スペクトラム症児者の心の理解

別府哲



こだわりの強い自閉症の子、不登校の子、病弱教育で出会った子：著者がこれまでに出会った子どもたちの事実から実践を学びます。

表面上だけをみれば困った行動とみえる姿に徹底して寄り添い、この子のホントのねがいはなんだろうかと？ と悩みながら、子どもの内面に近づいていく過程がていねいに綴られています。「思いに気づけなかった」そんな後悔や失敗とともに描かれるホントの心に気づいた時の喜びや子どもへの愛しさを感じる瞬間は、きっと本書を読む人のこれまでの出会いとも重なります。

出会いはタカラモノ  
子どもから教えられたことばかり

佐藤比呂二



本書ではASD（自閉スペクトラム症）の子どもから見た時の眺めや光景「*landscape*」を読みとり、共感的に応答していくことの大切さを、ASD児のいじめや不登校、愛着障害、児童虐待、触法行為などといった具体的な事例をあげながら書かれています。また、ASDの子どもと他の子どもたちとの豊かなつながりを築くための課題や教育指導の留意点について、小学校低学年・中学年・高学年・中学生と、それぞれの段階ごとに解説されています。私たち自身も関わりのおかげでASDの子どもたちと一緒に発達し合うために。

自閉症スペクトラム障害の子どもへの理解と支援

楠凡之



# 自閉症を「不安」という視点で理解する

立命館大学 三木裕和



## 自閉症と不安症

児童精神科のお医者さんが「自閉症は不安症の視点で理解しましょう」と書いています。自閉症の行動障害が「障害特性」からのみ説明されることが多い中、精神医学の重要な指摘と感じています。

「ASD<sup>\*</sup>と不安症の関連性について最も多くのエビデンスがある。ASDの人は、ASDの特性のほとんどない人に比べて、児童では21・6倍、成人では21・2倍、臨床レベルの不安症状を有する。不安症と診断された児童のASD特性は高い、という報告もある」

「ASDのある人の生活に支障となるような問題は、必ずしもASD症状だけでは説明できないことを押さえておくことが重要である。すでにASD診断がある場合、新たな問題となっている行動変化もASDの部分症状として解釈してし

まいがちである。診断の際には、併存の可能性のあるさまざまな精神医学的な併存症を念頭に」することが重要だ<sup>1)</sup>。

ここで言う「新たな問題となっている行動変化」とは、行動障害のことを指していますが、それを自閉症の「障害特性」から解釈し、視覚支援や物理的構造化、スケジュールのマネージメントで改善しようとすることが多いけれど、それだけではうまくいかないのではないかと。精神医学的なアプローチが必要なのではないか、という意見です。

いわゆる「強度行動障害」の状態にある自閉症の人たちは、とても混乱しているように見えます。しかし、それは単に「スケジュールがわからないから混乱している」とは必ずしも言えない。教室や居室を構造化して、どこで作業をし、どこでリラクセスするのがわかれば、強い怒りが収まるのではないかという意見もあるが、そうとは思えない。彼ら、彼女らが示す爆発的な行動の底には、人間に対する強い不信

# ソーシャルワークって なんだろう？

一度しかない生活を支え、人生に寄り添い、

かけがえのない生命を共に輝かせるために

## 第3回 一人のソーシャルワーカー として



日本福祉大学

### 木全和巳

きまた かすみ／日本福祉大学社会福祉学部。児童養護施設、知的障害児施設等を経て現職。研究テーマはソーシャルワーク、セクシュアリティ、権利保障など。著書に『〈しょうがい〉と〈セクシュアリティ〉の相談と支援』など

堅苦しい言葉も大切ですが

前は、少々堅苦しくソーシャルワークの「グローバル定義」の紹介を中心に置きつつ、小森さんの「抵抗の余地はあるのか？」という問いかけに対して、応答的に受けとめた言葉を紡いでみました。今回は、もう10年以上前になりますが、できるだけわかりやすくソーシャルワークという実践を伝えたいと願い、創ってみた少々長い「詩」を紹介して、解説してみます。

#### 「エンパワメントと解放の詩（うた）」

目の前の具体的な個別の○○さんから出発すること  
決して「例外」としないこと

「社会」は人間の無数の「つながり」でできている

わかっているつもりでも、みえていないことがたくさんある  
かわりながらしか、かわりかたはわからないこと

「戯言（たわごと）」「他人ごと（ひとごと）」「絵空事（えそらごと）」「騙されない」「騙さない」

わたしたちの目の前で日々起きている、起こっている、そして、起こしている事態

眼を背けたくなる、逃げ出したくなる、でも立ち止まり、少しでもだけ踏ん張ってみる

働きかけ、働きかけられている「関係」の無限の「つなぎめ」これが「社会」



一つひとつのこの「つなぎめ」にいていねいに注目して、この関係をより人間らしい「つなぎめ」に変えていこうという働きかけ実践こそがソーシャルワーク

「つなぎめ」と「つながり」と「つなぎかた」と「つながりかた」一対一の関係が無数にある

「つながりかた」というのは、つながつていないことも含めて「つながり」

あらゆるちからの関係がここに集約されている

一人も無数の関係のつながりのなかにある

おおきなしくみ 中間のしくみ 無数のまとまり、まとまりどうしのつながり

一人の専門職としても、自分のつながりかたとつなぎめに注目する「見立て」

自分がどこに立っているのか確認しよう  
どんなレンズで観ているのかも

「影響力」というのは、一つの「ちから」  
いつも「政治的」だ

この「ちから」を活用して、相手の「ちから」をみにつけていくこと

抑圧され、管理され、離れられない関係

身近で具体的な小さな「つながり」を通して、大きな「つながり」との関係を捉える

働きかけ、働きかけられることを通して、働きかける対象の中に、大きな「つながりかた」を捉えたい

働きかけてはじめてわかることを大切に

一つひとつの小さな「つなぎめ」は無限の大きな「つなぎめ」のしくみといつも関連している

小さな「つなぎめ」を通して、大きな「つなぎめ」の集合体のからくりを見抜きつつ、小さな「つなぎめ」の変革を通して、大きな「つなぎめ」そのものを変革していく見直しをつかむこと

共に学び合う中で、働きかけ、働きかけられる中でこそ把握できる実践の事実を手がかりに

にぎっている手をじっとみつめる

相手が離れたがつているのに握っていないか 自立の阻害

そんなにぎつく握りしめなくても離れてはいかないよ

自律の疎外

自分を満足させるために、離れていこうとする人を縛っては  
いないか

必要な「つながり」を必要だけ、きちんと生み出す手であるか

自分は、どんなつながりの中に生き、どんなつながりを求めているのか

自分では、選択できなかったつながりは、しがらみかもしれない

しっかりと手がさしのべられないと、生きていけないひとも  
いる

そのひとつにも、じぶんでできること、したいことがたくさん  
でも、さしでがましい手になっていないか

押さえつけるつながり、封じ込めるつながり、無視をするつ



**パンを通して地域とつながる**  
 大阪 さつき福祉会 吉田史枝  
 グーチョキパン屋さんはオー  
 プンから30年以上経つ老舗!!  
 パン屋さんです。天然酵母、国  
 産小麦、バターなどの材料にも  
 こだわって作るパンは、地域の  
 方々からも長く愛されています。  
 天然酵母のパン作りは一晩かけ  
 てゆっくり生地を育てます。7  
 時からの早出勤のなかまが、  
 早朝から成形にも携わります。  
 安心・安全なパンは保育園の  
 給食でも好評で喜ばれていま  
 す。最近では地域のお祭りやイベ  
 ントへの出店依頼も増えまし  
 た。“パン”を通して地域や社  
 会とつながるなかまたちは、仕  
 事への責任感を背にととも楽し  
 そうです。今日も厨房では、早  
 朝からパンのおいしい香りがあ  
 ふれています。

